

日本語教員養成課程の目的・目標

【大学等】

分類 ○:一般的, △:特徴的	個別分析 表No.	目標・目的等	① 理論と実践 知識と技術 知識とスキル 等	② 言語・文化・ 社会への理 解 等	③ 実践力 実践的な能力 等	④ 高い専門性 専門知識 高度職業人 等	⑤ コミュニケー ション能力 等	⑥ 幅広い知識と 教養 国際感覚 等	⑦ その他	⑧ 記載なし
○	1	-								○
○△	2	日本語教育学原論を中心に置き、教育の素材となる日本語そのものを運用及び構造の二側面から追究する。また、様々な日本語教授法の背景をなす理論、日本語習得に関わる種々の要因を検討し、理論面、実践面から日本語教育のあり方を追究していく。	○							
○△	3	1. 教育目的 日本語教育専攻プログラムは、日本語を通して多文化共生社会に貢献できる人材の育成を目的としています。 日本から海外へ、海外から日本へと、人の行き来が増えるに連れ、異言語や異文化との接触場面が多くなっています。相互理解のベースはことばです。日本語を学びたい人の数も増え続けています。本専攻プログラムでは、多様化した日本語の学習目標に対応した手助けができるよう、日本語の仕組み、日本語の学習と教育、コミュニケーション能力、異文化理解などについて学びます。 将来、国の内外で日本語教育及びその関連の仕事に携わりたいと思っている人、あるいは日本語や日本語教育を専門として研究したいと思っている人は、そのための確かな基盤となる知識と技能を修得することができます。また、国際的な機関で働きたいと考えている人にとっても、自らの言語・文化とともに他の言語・文化を理解するための力を養うことのできるプログラムです。	○	○					○(多文化共生に貢献できる人材、多様化した日本語の学習目標に対応した手助けができる)	
○△	4	●養成する人材像 日本語教育専攻修士課程は、国内外を問わず現職で日本語教育に従事している人材のリカレント教育及びより高度な実践研究の能力を備えた日本語教員の養成等を目的として、教育研究を行います。					○			
○	5	大学院日本語教育研究科における人材養成・教育研究の目的 近年の社会経済のグローバル化は、世界の文化、教育、科学技術、情報の交流をますます活発化させ、日本語を媒介とした交流も盛んに行われるようになりました。その結果、日本語学習者数は年々増加し、2006年の国際交流基金の調査では、290万人を超える人々が世界各地で日本語を学んでいると言われています。 本研究科の人材養成の目的は、こうして拡大する国内外にける日本語教育の従事と・発展のために、日本語教育の専門家を養成することであり、理論と実践の力が総合的に身に付いた有能な人材を育成することに主眼があります。	○				○			
○	6	学則第7条(抄) 研究科に以下の通り専攻を置き、目的を定める。 (1)博士前期課程 イ 言語応用専攻 日本語教育学、英語教育学、言語情報工学、国際コミュニケーション・通訳の各専門分野において、自らの専門性を磨いて研究能力を高めるとともに、その専門性を十分に活かすことのできる実践的な知識とスキルを有する高度職業人の養成をめざす。	○				○		○(研究能力を高める)	
△	7	日本語学科の概要 日本語学科は「高いコミュニケーション能力」をそなえた「社会人」になるための学科です。 日本語教師(外国人に日本語を教える)、学校教員(中学・高校の国語・英語の教員)などを目指す。 航空・ホテル・ツーリズム・銀行・保険・金融・商社・販売業・製造業などで、接客・営業・事務などの仕事をめざす。 出版・広告など文字メディアでの仕事をめざす。 それぞれの志望や興味に合った学習の場を提供します。					○			

○	18	専攻の紹介 理論を理解しているからこそ可能な教育があります。 日本語教育学専攻は、日本語教育の基礎としての日本語学と、日本語学の基礎としての言語学を重視し、言語理論に基づいた日本語研究と、日本語教育学の理論的展開を目的に学びます。							○(基礎, 理論)
○△	19	人材養成目標 外国人留学生や海外の教育機関等において英語等で日本語が教えられ、かつ高度な専門知識を有する日本語教師の養成。				○			
○	20	日本語教員養成課程の概要 日本語教員養成課程は、2000年3月に文化庁国語課から刊行された「日本語教育のための教員養成について」に示された次の日本語教員としての資質および専門的能力を備えた人材を育成するための総合的教育内容です。そのため、言語学、日本語教育に関する専門科目を土台としたうえで、幅広い分野からカリキュラムを編成しています。 ●日本語教員としての資質 (ア)言語教育者として必要とされる、学習者に対する実践的なコミュニケーション能力を有していること (イ)日本語ばかりでなく、広く言語に対して深い関心と鋭い言語感覚を有していること (ウ)国際的な活動を行う教育者として、豊かな国際的感覚と人間性を備えていること (エ)日本語の専門家として、自らの職業の専門性とその意義についての自覚と情熱を有すること ●専門的能力 (ア)言語に関する知識・能力 (イ)日本語の教授に関する知識能力 (ウ)その他、日本語教育の背景をなす事項についての知識・能力	○			○	○	○(言語に対する深い関心と鋭い言語感覚、豊かな国際的感覚と人間性)	
○	21	教育・カリキュラム 日本語専攻では、外国語学部が提供している25(留学生用の専攻語日本語を含む)の専攻語の中から1つを身につけ、その上で日本語・日本文化を客観的に捉えることを目標としています。最初の2年間は専攻語の授業を中心に、日本語専攻の基礎的な科目を学び、3、4年生では、日本語学・日本語教育学・日本文化学・言語学の領域にわたって、日本語を外国語のように観察し客観的に見る目を養えるよう指導しています。特に日本語教育に関しては、教育実習の目的を兼ねた海外派遣や交換留学の機会も設けています。					○		
○	22	アドミッション・ポリシー 言語社会専攻は、世界の諸言語とそれを基底とする文化一般についての理論と実践にわたる教授・研究を通し、外国の言語や文化、社会に関する高度な専門的知識を有する研究者のみならず、国際舞台で活動するために必要な広い知識と高い教養そして外国に関する深い理解を有する有為な人材を養成することを教育理念としています。(後略)	○	○		○		○	
○	23	日本語教員養成課程は、外国人等(日本語を母語としない人)に対する日本語教育の教員養成を目的とする課程で、全学科の学生が履修可能です。							○(日本語教員の養成)
○	24	1. 日本語教員養成コース 文学部(3学科共通)では、将来日本語教員を志望する者のために本学独自の資格として、日本語教員養成コースを設けています。 このコースでは、日本在住の外国人、海外帰国生、留学生、就学生及び海外での日本語学習希望者などに日本語教育をおこなうために必要な科目を設定し、その修得単位に応じて「1級」または「2級」として本学独自の資格認定を行います。							○日本語教員の養成
△	25	なし							○

△	26	(1)研究教育の目的 比較文化専攻の目的は、世界各地の言語、文学、思想など文化現象の比較研究を行うとともに、国際化社会に対処できる高度な専門知識と広い視野を備えた人材を育成することになる。この目的を達成するため、次の諸点を研究教育の基本方針としている。 ①広い視野に立って、個別専門分野の課題を捉えるための深い洞察力を養う。 ②個別専門分野に立脚しつつ、他分野との関連に重点を置いた研究教育を行う。 ③優れた国際感覚と先見性を培う為のコミュニケーション能力を養う。 (後略)				○	○	○(広い視野, 国際感覚)		
△	27	【2】日本語支援教育専修の教育・研究の目標 外国人児童生徒や海外からの帰国児童・生徒に対し、適切な指導助言を含む日本語教育の支援を行う能力を養うとともに、地域社会の外国人の支援や国際理解教育及び国際交流を推進する能力をもつ日本語支援教育専門家を養成することを目的としている。 以上の目的をふまえ、本専修では次のような目標をもって教育・研究を進めている。 ア 外国人児童・生徒及び海外からの帰国児童・生徒に対し、学習者の置かれた環境に配慮し、適切な指導助言を含む日本語教育の支援を行い得る知識・能力を養成する。 イ 学校教育以外の場においても、日本語教育を核に国際交流及び外国人支援を行いうる知識・能力を養成する。 ウ 日本国内のみならず、外国においても、日本語学習志望者に日本語教育を行いうる知識・能力を身に付けさせ、日本の文化発信に寄与する力を養成する。 エ 世界各地の言語・文化について学ぶことにより、多文化理解の素地を身に付けさせ、学校教育において国際理解教育を推進する能力、また広く国際交流に貢献する力を身に付けさせる。 オ 外国人留学生で、帰国後、日本語教師として活躍できる知識・能力を養成する。	○	○		○			○(日本語教育の支援を行う能力, 国際理解教育, 国際交流推進, 留学生が日本語教師として活躍できる知識・能力)	
△	30	この専門領域では、日本語という一言語を通じて世界の人々が相互に理解し、助け合い、共生できるようにするために日本語教育に関する基礎実践的な方法を学びます。開設授業科目は、発音、文法、文字などの日本語教育に関する基礎的科目と、日本語教授法、教材研究などの日本語教育の実践的方法に関する科目が主になりますが、外国人児童・生徒に対する日本語教育実習を横浜市内の小学校や本学留学生センター等で行います。異なる言語や文化を持つ21世紀の人間社会において相互に理解、扶助、共生する方法を探るのがこの専門領域の目標です。					○		○(相互理解, 扶助, 共生する方法)	
△	31	<目的> 本校が修了証を発行するもので、日本語非母語話者に対する日本語教育に携わる人材を育成すること。 <理念> 1)日本語教育の専門性と独自性を学問的に明確にすること 2)日本語教育の専門性において質の高い教員を養成すること 3)日本語教育現場では多言語・多文化接触が不可避であるため、教育者であるまえに一人の市民として豊かな国際感覚や人間性を備えている教員を育てること				○		○		
○	62	目的 海外の優れた外国人日本語教師を対象に、修士課程における組織的で体系的な教育指導により、日本語学・日本語教育学・日本文化などに関する知識と理解を深めさせ、各国の日本語教育における将来のリーダーたる人材として養成することを目的としています。				○		○	○(各国の日本語教育のリーダー)	
○	62	目的 日本語に熟達し、日本語教育において優れた研究能力と実践能力を持ち、かつ日本の社会・文化全般にわたって知識と理解力を備えた、指導的な外国人日本語教育の研究者・教師及び日本語教育行政の政策担当者などの養成を目的としています。				○		○	○(指導的な研究者・教師・行政政策担当者)	
計	31		10	6	3	14	3	4	13	3

【日振協】

分類 ○:一般的, △:特徴的	個別分析 表No.	目標・目的等	① 理論と実践 知識と技術 知識とスキル 等	② 言語・文化・ 社会への理 解等	③ 実践力 実践的な能力 等	④ 高い専門性 専門知識 高度職業人 等	⑤ コミュニケー ション能力 等	⑥ 幅広い知識と 教養 国際感覚 等	⑦ その他	⑧ 記載なし
○	32	なし								○
○△	33	なし								○
○	34	なし								○
○△	35	なし								○
○△	36	本校の日本語教師養成講座は専門性の高い日本語教師を養成し、国際社会に貢献できる人材を育成することを目的としています。				○			○(国際社会に貢献)	
○△	37	-								○
○	38	-								○
○	39	-								○
○	40	日本語教師養成のための文化庁新シラバスに対応。幅広い知識と経験を1年半かけてじっくりと身につけることができます。「ネイティブ・学習者・指導者」それぞれの視点から日本語について学び、教育実習を通して「教えること」を修得。実習では講師や他の受講生、外国人学習者から、実習の客観的な評価を得られます。	○							
○△	41	本科コース 「ひらがなから日常会話レベル」の日本語学習者を指導できることを目標とします。 専科コース 「長文読解、ニュース等の聴解、論文の書き方、スピーチの仕方等」を学ぶ学習者に教えるための実力を養成し、全レベルの学習者にコースデザインを行えるようになります。他に、在日外国人の環境、海外の教育事情、アジア近代史、日本語教師の心構えなど、あらゆる角度から日本語教育を捉えながら社会性の高い教員を目指します。						○	○(社会性の高い教員)	
○	42	目的:1.(当該日本語教育機関の名称)の教師養成および発掘。 2.日本語教師未体験者の導入講座。 3.(当該日本語教育機関の名称)の指導方法等に興味のある経験者。							○(教員の養成、発掘)	
△	43	-								○
△	44	-								○
△	45	-								○
△	46	-								○
△	47	●本科 このコースは現場ですぐに役立つ知識、技術を習得し、日本語教師として活躍していただけるようデザインされています。 ●実習本科 本科(理論講座、実技講座A、B)で、教壇に立つための知識、技能を身につけ、実習科では、外国人学習者対象に教育実習を行い、実践経験を積みます。	○							
△	48	ゴール:1.自分の現場の学習目標(到達目標)の見える化と課題の明確化 2.課題遂行型の学習目標の評価方法を知る 3.課題遂行型の評価(テスト)の作成							○(課題の明確化、評価)	
計	17		2	0	0	1	0	1	4	11

【地域】

分類 ○:一般的, △:特徴的	個別分析 表No.	目標・目的等	① 理論と実践 知識と技術 知識とスキル 等	② 言語・文化・ 社会への理 解等	③ 実践力 実践的な能力 等	④ 高い専門性 専門知識 高度職業人 等	⑤ コミュニケー ション能力 等	⑥ 幅広い知識と 教養 国際感覚 等	⑦ その他	⑧ 記載なし
○	50	この講座は、地域に暮らす外国人の日本語学習をサポートする「日本語ボランティア」としての基本的な知識や心構えなどを学んでいただくものです。							○(学習サポート, 基礎的知識, 心構え)	
○	51	-								○
○	52	県内の外国人と日本語で交流するボランティアのためのスキルアップ講座を開催します。							○(日本語で交流するボランティア, スキルアップ)	
○	54	-								○
○	55	この講座では、地域に住む外国人へ日本語を教えるときに必要な教材や教え方についての基礎を学びます。							○(日本語指導, 基礎)	
○	55	この研修では日本語学習者を支える様々な機関と関係者, そしてその役割を整理し, 市町を越えた広域的相互ネットワークの可能性と日本語支援の充実を考えます。							○(日本語支援)	
○	56	-								○
○	57	-								○
○	58	当講座は、参加者自身が日本語ボランティア活動について考える講座です。							○(ボランティア活動を考える)	
○	62	Aコース 1)到達目標 ①日本語の運用能力と日本語を教えるために必要な日本語の分析力の向上を目指します。ACTFL-OPIと日本語能力模擬試験で伸びを測ります。 ②教授法に関する基礎的な知識を整理し、教授技術の向上を目指します。とくに、初級の日本語の教授法を身につけることと、技能別の日本語を教えるために必要な知識を学ぶことを目標とします。 ③日本社会や日本人との接触を通して、日本事情に関する全般的な知識を増やし、日本理解を深めます。 Bコース 1)到達目標 ①より豊かな授業のために情報収集とコミュニケーションができる日本語の運用力の育成と日本語を教えるために必要な日本語の分析力の向上を目指します。ACTFL-OPIと日本語能力模擬試験で伸びを測ります。 ②教授法に関する基礎的な知識の整理と、教授技術の向上を目指します。特に初・中級の日本語のコミュニケーションな教授法を学ぶこと、各自の教育現場での問題点を理論や他の人の意見を取り入れつつ、解決できるようになることを目指します。 ③日本人や現在の日本社会との接触を通して、日本事情に関する全般的な知識を増やし、日本理解を深めます。	○	○	○		○		○(問題解決能力)	
○	62	2. 研修目標と研修の流れ 日本語研修の基本方針である「日本語運用能力の向上, 教授法の知識拡充, 現代社会に重点を置いた日本事情の知識拡充」を共通目標とした上で, 中国の大学教師の特性及び中国の日本語教育の成熟度から見て, 教授法分野に重点を置き, 以下の目標を設定する。 (1)学習・教授理論を学び, 自分の言語学習習慣を見直し, 授業改善の示唆を得る。 (2)教授法の中の特定分野(授業研究, 言語研究, 文化・社会研究)について, 基礎知識と技能を学び, 教師としての専門性を高める。 (3)全科目を日本語で受講し議論することによって, 日本語運用能力の向上を図る。	○	○	○	○	○			

△	64	児童生徒の指導に経験豊かな教員経験者を対象に、日本語指導に必要な知識を習得してもらうことで、地域において日本語学習支援基金事業を活用した日本語教室の設立・運営を担う人材の育成を目的とする。									○(日本語指導の知識, 設立・運営を担う人材)	
△	64	外国人児童生徒向けの日本語ボランティアの養成を目的とし、講座修了生が、地域で外国人児童生徒を対象にした日本語教室に積極的な参画を行うことで、日本語教室の増加・指導内容のさらなる充実につなげる。									○(児童生徒向け日本語ボランティア養成)	
△	65	-										○
△	66	-										○
△	67	平成17～21年度開催した当協会日本語ボランティア養成講座修了者、教職経験者等を対象に、日本語学習支援が必要な外国人児童生徒等の在籍する学校等へ日本語学習支援者として派遣等するボランティアを養成する研修会を実施する。									○(児童生徒向け日本語学習支援者)	
△	67	当協会の子ども日本語学習サポーター登録者の県内小・中学校での日本語学習支援活動の実践力の向上と、サポーター同士の情報交換を図るため、スキルアップ研修会を実施する。				○					○(児童生徒向け日本語学習支援, 情報交換)	
△	68	市内及び近隣在住外国人への日本語教授方法を学び、日本語ボランティアスタッフの育成を図る。これにより、在住外国人との交流を図り、日本人と外国人が共に地域を支えるという「多文化共生」が推進されることを目的とする。									○日本語教授方法, 多文化共生)	
△	69	-										○
△	70	外国人の子どもの支援に関心のある方を対象に、外国につながる子どもたちの日本語支援について5回コースで学びます。									○(子どもの日本語支援)	
△	71	日本語学習で、学習者(外国人)へどのように指導すればよいか講習を受けて、毎週開催しているラウンジの日本語学習で先生になってくれる人材を増やす。									○(日本語指導)	
計	21		2	2	3	1	2	0	13	7		